



・地域の北西部は九州山地の一部を占め 1000m 級の山々が連なっている。南東部には北東-南西方向に延びる山間凹地と山嶺が交互に配列している。神門・田代・宇納間といった部落はこの凹地内にある。南東隅は尾鈴山の山塊の一部である。これらの山地や凹地を横断して 五十鈴川・耳川・小丸川の主要河川が 蛇行しながら南東ないし東方に流れ 日向灘にそそいでいる。山紫水明とはこの地域にふさわしい形容である。

・図幅地域の大部分は四万十累層群からなり 南東隅にわずかに尾鈴山酸性岩類が露出している。この主体は流紋岩溶結凝灰岩で 中期中新世の産物である。また主要河川沿いに阿蘇火砕流が点々と分布している。これははるばる九州山地をこえてきた溶結凝灰岩と火山灰である。

・九州四万十帯の北東部を占めるこの地域の四万十累層群は 諸塚層群(白亜系)・神門層(古第三系)および日向層群(古第三系-下部

中新統)からなり 順次北西から南東へと配列している。諸塚層群下部は千枚岩を主とし 塩基性火砕岩を伴う。神門層は泥質岩と塩基性火山岩からなり とくに玄武岩の枕状溶岩が多い。日向層群は砂岩・頁岩および砂岩頁岩互層からなり 互層部では種々の堆積構造がみられる。

・諸塚層群と神門層を境する“延岡衝上”は 著しく低角度(10°以下)の衝上断層で その前縁部には覆互構造が発達し 神門層の泥質岩は著しく剪断されている。神門層と日向層群の境も顕著な低角衝上断層であるが 延岡衝上の前縁部にみられるような剪断帯を伴わない。入道雲が積み重なったような衝上断層群は本図幅の圧巻である。

・この図幅では 四万十累層群の岩相層序を詳しく説明し 砂岩組成や変成作用など多角的な検討によって 時代論や構造的位置づけを行っている。

5 万分の 1 地質図幅の新刊

神 門

MIKADO

5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 今井 功・寺岡易司・奥村公男(地質部)・
小野晃司(環境地質部)
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 地学文献センター(0423)62-5050

・神門と書いてミカドと読む。近くに鬼神野(キジノ)という所もある。何か由緒ありげだが 土地の人に聞いても詳しいことはわからない。この図幅地域は宮崎県東臼杵郡の南部にある山村地帯で 地域内には東郷・西郷・南郷・北郷の 4カ町村と 諸塚村・椎葉村がある。いずれも椎茸の産地で知られている。神門は南郷村の役場の所在地である。東郷町坪谷には若山牧水の生家と牧水記念館があり 訪れる人が多い。かつては山間僻地だった図幅地域も 最近は道路がよく 日向市から車で1時間半で行けるようになった。

地 質 ニ ュ ー ス	第 307 号	3 月 号
昭和55年 3 月 1 日	定 価 ¥ 500	千 実 費
編 集	発 行	
発 行 人	工業技術院 地質調査所	
発 行 所	林 久	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南 4 の 2 の 12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵 2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	